

心不全チームにおける薬剤師の役割

淡路島は高齢化が進んでいる地域であり、2020年における淡路地域の高齢化率は37.5%と非常に高く、全国平均の20年先を行く超高齢化地域となっています。

高齢化により増加している疾患の一つに心不全があります。当院でも心不全患者数が年々増加しており、何度も入退院を繰り返す患者さんも増えています。

今回は心不全の患者さんの再入院を少しでも減少させるために、心不全チームとして行っている取組みと薬剤師の役割について紹介します。

1.心不全カンファレンス

当院では毎週水曜日に心不全カンファレンスを実施しています。カンファレンスには、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、地域連携室スタッフ、メディカルソーシャルワーカーといったさまざまな職種が参加しています。心不全で入院となった患者さんについて、入院前の生活状況や入院の経過、問題点や今後の方針について記載された資料を基に再入院を防ぐための対策などについて話し合っています。主に薬剤師は、患者さんが毎日飲んでいるお薬の服薬状況についての情報提供や飲み忘れを防ぐために薬を飲むタイミングの変更の提案、内服管理が難しいような患者さんであれば調剤薬局の薬剤師が患者さんの自宅に訪問して薬物治療をサポートする在宅患者訪問薬剤管理の提案などを行っています。

2.心保護薬のタイトレーション（用量調節）

心不全治療の治療薬や心臓を保護する働きがある薬は、可能な限り増量することが推奨されています。当院では薬剤師が服薬指導を行った際に、患者さんごとに心不全の状態や血圧、脈拍、検査値などを確認して心臓を保護する働きがある薬の増量が可能と考えられる場合に医師に薬の増量についての提案を積極的に行っています。医師と薬剤師がダブルチェックを行うことで患者さんにとってよりよい薬物治療を提供できるように取り組んでいます。

さまざまな職種と連携を図りながら心不全の患者さんにとって最良の薬物治療を提供できるように薬の専門家として取り組んでいます。
ささいなことでも気になることがありましたら気軽に薬剤師にご相談ください。